

◎次期横須賀市基本構想・基本計画 (仮称) YOKOSUKA ビジョン 2030 について

1 基本的な考え方

人口減少や少子高齢化の進展等により生ずる社会変化を捉えた中で、市民が期待や希望を持てるような、横須賀の未来像を皆で描き、そこに向かって進むべき方向性を示していく。(P.4「計画策定の手法」参照)

2 次期基本構想・基本計画の必要性

平成 23 年の地方自治法改正により、まちづくりの基本的な方向性を示す、基本構想の策定の義務付けは廃止されている。しかし、急速に進む少子高齢化や、加速度的に進化するテクノロジー等、激しい社会変動の中であるからこそ、市民、事業者、行政が同じ方向を向いて進んでいくため、長期的な視点に立った地域の現状、そしてあり方を示し、共有するためのものとして、基本構想・基本計画は必要である。

3 策定の考え方

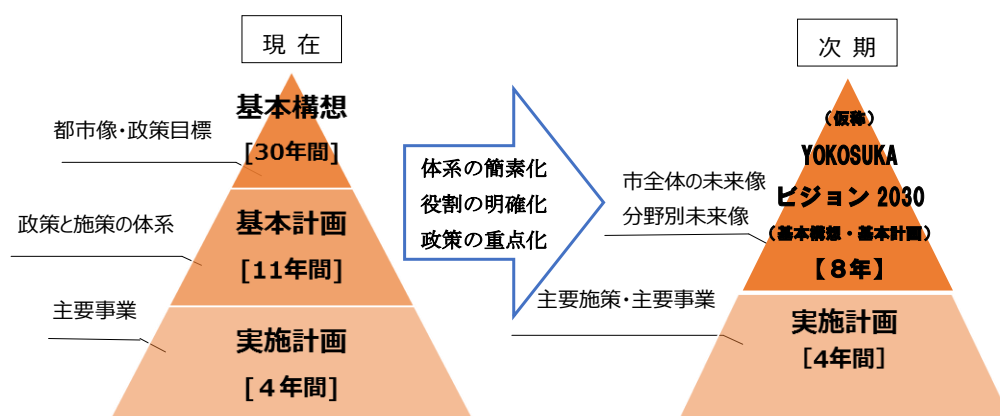
(1) 期間

今までにない勢いでの社会、テクノロジーの変化のスピードに対応できる計画として、2030 年を見据えた 8 年間 (2022 年～2029 年) とする。

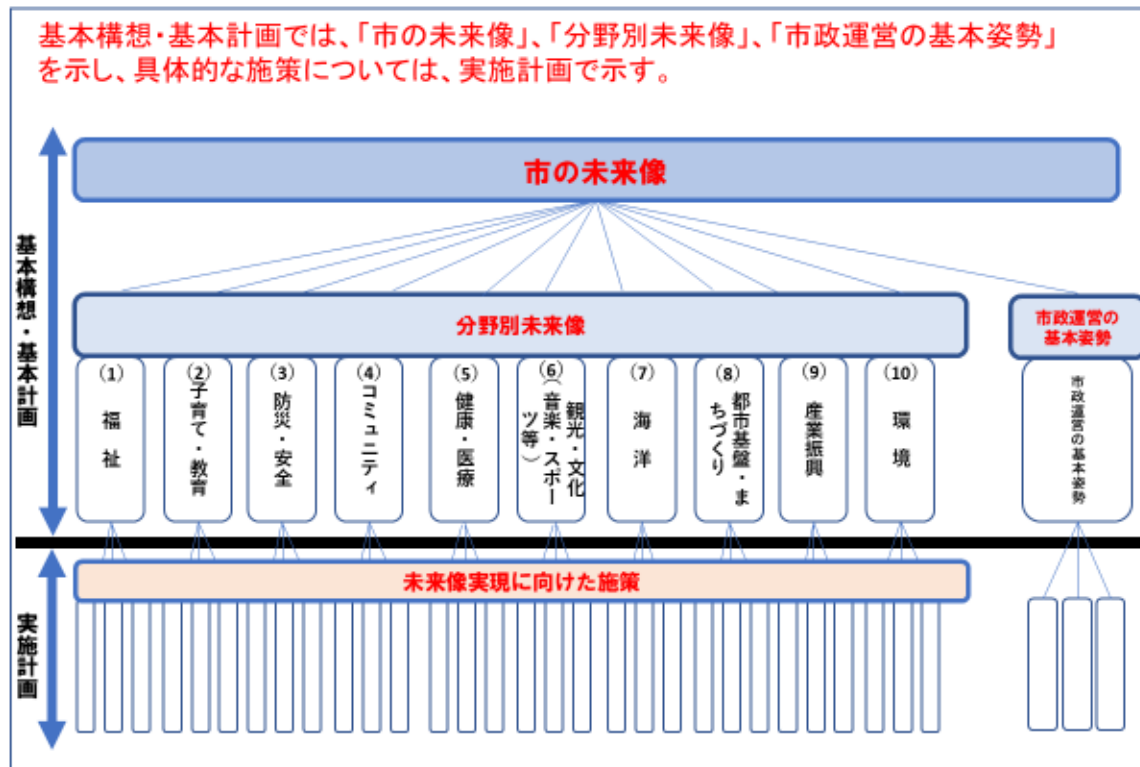
(2) 構成

現在の 3 層構造から、「基本構想・基本計画」と「実施計画」との 2 層構造とし、それぞれの役割を明確化し、重複感を解消することで、よりシンプルで分かりやすい構成とする。

また、「基本構想・基本計画」を見てもらう、意識してもらうために、見せ方についても、活きた言葉を使い、インパクトのあるデザインを追求する等、形式に拘らず、市民の心に届くビジョンになるよう工夫を凝らす。



【計画構成（イメージ）】



（３）都市像（未来像）のあり方

現行の基本構想で示されている都市像（国際海の手文化都市）については、その考えを踏まえたうえで、新たな都市像（未来像）を再構築する。

（４）市民意見の聴取

幅広く市民の声を聞く機会を増やすとともに、現在の社会環境も踏まえ、意見聴取や、ワークショップの実施にあたっては、SNSやオンラインを活用した手法も導入していく。

(5) スケジュール（概要）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
令和２年度	コンサル選定												
	基礎資料の作成、記載事項整理												
					基本構想・基本計画草稿（たたき台）策定								
					市民等意見聴取								
					市民、中高生ワークショップ・アンケートなど								
					総合計画審議会への諮問・審議								
特別委員会			特別①			特別②		特別③		特別④		特別⑤	
令和３年度 （参考）	基本構想・基本計画素案策定												
					パブリックコメント実施								
	総合計画審議会での審議・答申												
					基本構想・基本計画原案策定								
	庁内検討（意見照会、ヒアリング、プロジェクト会議、部長会議など）												
					基本構想・基本計画 議案提出								
	実施計画策定												

◎（参考）計画策定の手法

（仮称）YOKOSUKA ビジョン 2030 は、未来起点型手法で検討していく

1 未来起点型手法（バックキャスティング）

未来のあるべき姿から逆算する形で、その実現のために現在取り組むべき事柄を検討する手法

【メリット】

- ・不確実性の高い未来に備えることができる
- ・独自性のある未来像を描くことができる
- ・これまでにない新しい発想や、本質的・構造的な解決策が生まれやすい

【デメリット】

- ・未来像をしっかりと共有できないと、現在の取り組みにばらつきが生じる
- ・短期的な成果が見えにくい

2 現在起点型手法（フォーキャスティング）

バックキャスティングとは対照的に、現在を起点に課題を整理し、解決策を見つける手法

【メリット】

- ・確実性の高い未来を予測する
- ・短期的な課題解決に向いている

【デメリット】

- ・過去の経験や現在の政策、情報にとらわれて、未来像も現在の延長線上で考えてしまう
- ・短期的には成果が出るものの、根本的な解決にならないことがある

